



2016年10月14日

各位

会社名 株式会社アデランス  
代表者名 代表取締役会長兼社長 根本信男  
上場取引所 東証 市場第一部  
コード番号 8170  
問合せ先 グローバル IR 部長 泉本正明  
電話番号 (03) 3350-3268

### 平成29年2月期第2四半期連結業績予想と実績値との差異 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成28年4月14日に公表しました平成29年2月期第2四半期連結累計期間の業績予想数値と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、当社は本日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、平成29年2月期通期連結業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成29年2月期 第2四半期連結累計期間の業績予想数値と実績値との差異

(平成28年3月1日～平成28年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	40,000百万円	200百万円	190百万円	30百万円	0.86円
今回実績(B)	37,860百万円	169百万円	△1,245百万円	△1,319百万円	△37.85円
増減額(B-A)	△2,140百万円	△31百万円	△1,435百万円	△1,349百万円	—
増減率	△5.3%	△15.0%	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 平成28年2月期第2四半期	39,842百万円	459百万円	821百万円	349百万円	10.00円

#### 差異の理由

国内男性市場において、男性毛髪市場はもとよりAGA(男性型脱毛症(Androgenetic Alopecia))治療薬や発毛・育毛剤などの隣接市場との競争が激化しており、国内女性市場では競合他社や異業種が低価格帯のウィッグに参入したことにより新規顧客の獲得が鈍化しているところ、競合他社のウィッグユーザー獲得のための諸施策の売上効果も限定的なものとなりました。また、米国植毛事業においては、広告料金の高騰により十分な広告量を投下することができず、新たな植毛手法(FUE)へのシフトが想定よりも遅れております。これらの結果、連結売上高及び営業利益が業績予想を下回ることとなりました。

経常利益については、以上に加え、円高の影響を受け、為替差損 1,419 百万円を営業外費用に計上したことにより、業績予想を下回る結果となりました。これは主に、当社保有の外貨建資産の評価替によるものであります。

## 2. 平成 29 年 2 月期 通期業績予想数値

(平成 28 年 3 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	81,300 百万円	650 百万円	640 百万円	100 百万円	2.86 円
今回修正予想(B)	77,462 百万円	△370 百万円	△1,520 百万円	△1,900 百万円	△54.49 円
増減額(B-A)	△3,838 百万円	△1,020 百万円	△2,160 百万円	△2,000 百万円	—
増減率	△4.7%	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 平成 28 年 2 月期	79,153 百万円	△125 百万円	△548 百万円	△1,860 百万円	△53.27 円

### 修正の理由

国内男性市場において、男性毛髪市場はもとより AGA（男性型脱毛症（Androgenetic Alopecia））治療薬や発毛・育毛剤などの隣接市場との競争が激化しており、国内女性市場では、競合他社や異業種が低価格帯のウィッグに参入したことにより、当社の主力商品であるレディメイドウィッグ・オーダーメイドウィッグの新規顧客の獲得が昨年度より引き続き鈍化傾向にあり、期初から競合他社対策としてメンテナンス強化や下取りキャンペーンなどの様々な取組みも、当第 2 四半期ではその効果は限定的となりました。今後も、引き続き、新規顧客獲得に向けた諸施策を実施する計画ですが、市場環境が当初の想定どおりに回復することは短期的には困難と思われまますので、売上高は当初の予想を下回る見込みです。

海外事業では、米国のボズレー社において顧客の選択による FUE（メスを使用しない植毛技術）へのシフトが徐々に進んでいるものの、大統領選挙やリオデジャネイロ・オリンピックの影響による広告料金の高騰で十分な広告量を投下することができず、問い合わせ件数の減少等で当初の予測を下回る見込みです。国内女性事業や米国植毛事業は、回復まではしばらく時間を要するものと予測しております。

また、今期は当初より国内事業や海外事業において、新規顧客獲得のために広告宣伝費や新規出店を積極的に展開してまいりましたが、引き続き国内の女性向けウィッグに対する需要の高まりを受け新しい顧客ニーズに応えるための新商品の開発・広告費や積極的な新規出店による店舗関係費及び人件費のさらなる増加が見込まれます。

さらに、10 月 1 日より新たに当社グループ化したしました国内の株式会社ハイネットにおいては、当社フォンテーヌ事業とのシナジー効果が現れるまで、ワンタイムコストなど収益面での減益を見込んでおります。

以上のような最近の業績動向を踏まえ、業績予想を修正いたしました。

以上

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。